

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q1 建築物の環境品質						3.2	
Q1 室内環境			0.38		-		2.8		
1 音環境		2.4	0.15		-		2.4		
1.1 室内騒音レベル		1.0	0.40	3.0	-				
1.2 遮音		3.5	0.40		-				
1 開口部遮音性能		3.0	0.70	3.0	-				
2 界壁遮音性能	事務所の界壁遮音性能がDr-45以上。	5.0	0.30	3.0	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	3.0	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	3.0	-				
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-				
2 温熱環境		2.6	0.35		-		2.6		
2.1 室温制御		3.0	0.50		-				
1 室温		3.0	0.38	3.0	-				
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38		-				
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0	-				
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-				
3 光・視環境		3.3	0.25		-		3.3		
3.1 昼光利用		3.0	0.30		-				
1 昼光率		3.0	0.60	3.0	-				
2 方位別開口			-	3.0	-				
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-				
3.2 グレア対策		4.0	0.22		-				
1 昼光制御	ブラインドと庇によるグレアの制御	4.0	1.00	3.0	-				
3.3 照度	全般照明方式で照度が500lx以上1000lx未満	4.0	0.16	3.0	-				
3.4 照明制御		3.0	0.31	3.0	-				
4 空気質環境		3.1	0.25		-		3.1		
4.1 発生源対策		4.0	0.50		-				
1 化学汚染物質	建材は、JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	4.0	1.00	3.0	-				
4.2 換気		2.3	0.30		-				
1 換気量		3.0	0.33	3.0	-				
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-				
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33	3.0	-				
4.3 運用管理		2.0	0.20		-				
1 CO ₂ の監視		1.0	0.50		-				
2 喫煙の制御		3.0	0.50		-				
Q2 サービス性能			0.30		-		3.4		
1 機能性		3.6	0.40		-		3.6		
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40		-				
1 広さ・収納性		3.0	0.25	3.0	-				
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.25	3.0	-				
3 バリアフリー計画		3.0	0.51		-				
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30		-				
1 広さ感・景観		3.0	0.25	3.0	-				
2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペースは執務室の1%以上。また、自動販売機等も設置。	5.0	0.25		-				
3 内装計画	利用者に愛着が生まれる温かみを感じる素材(タイル・木)の採用。	4.0	0.51		-				
1.3 維持管理		4.0	0.30		-				
1 維持管理に配慮した設計	内壁は、防汚性の高いビニル壁紙を採用。外部に露出する金属部材は、ステンレス製、あるいは溶融亜鉛メッキを施した防錆品、フッ素カルバリウム鋼板を採用。	4.0	0.50		-				
2 維持管理用機能の確保	内装材は防汚性の高いものを採用。	4.0	0.50		-				
2 耐用性・信頼性		3.5	0.30		-		3.5		
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.8	0.50		-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	構造体Ⅱ類(I=1.25)を採用。	4.0	0.80		-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30		-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20		-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	市民センター事務室:床:塩ビタイル4(OA707-H50)、壁:ビニル壁紙(PBt12.5/2枚貼り)、天井:ロックウール化粧吸音板t12(PBt12.5)	5.0	0.10		-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20		-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-				
2.4 信頼性		3.6	0.20		-				
1 空調・換気設備		3.0	0.20		-				
2 給排水・衛生設備	節水型便器の採用。便器は中水利用器具を採用(雨水)。受水槽は緊急遮断弁と非常用給水弁の設置。	5.0	0.20		-				
3 電気設備		3.0	0.20		-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		-				
5 通信・情報設備	メタルケーブル(電話)、光ケーブル(LAN)の設置見込。精密機器の地上階設置。防災無線の設置見込。	4.0	0.20		-				

3 対応性・更新性			3.1	0.30	-	-	3.1
3.1 空間のゆとり			4.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高は3.7m以上3.9m未満	4.0	0.45	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.1以上0.3未満	4.0	0.55	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			2.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		1.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.32	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		周辺環境を読み取り馴染む形状・色彩計画とし、圧迫感を与えない景観を形成。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		設計プロセスに地区住民(施設利用者)が参加している。	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm=非住宅0.77	5.0	0.17	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		ハイサイドライトを利用した自然換気システム	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		BEIm=非住宅0.77 LED照明設備導入	3.3	0.52	-	-	3.3
4 効率的運用			2.0	0.21	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水		節水型大便秘器を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水をトイレ洗浄水に利用	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		OA7ローアー及びGL工法を採用している。	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率=85%	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	メイン道路を避けて駐車場出入口の設置。満空表示の設置。	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	照明器具はLEDを採用。外構部はタイマ等自動設定を行っている。	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	